

現行「都市マス」

～エコ・コンパクトな都市構造～

③ 相互につながる個性的な地域の形成

- 個性的な地域の形成
- 地域をつなぐネットワークの強化

+

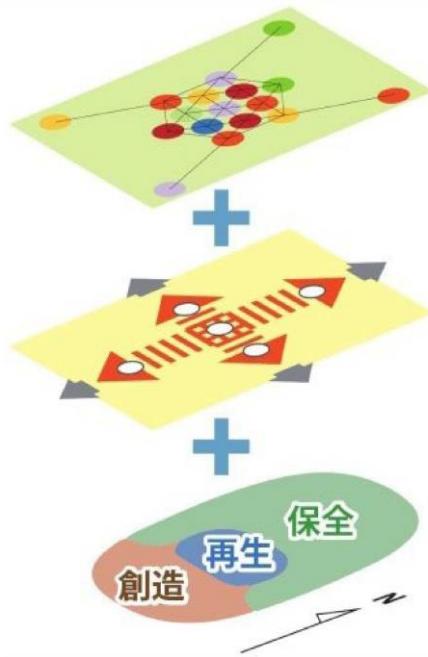
② 都市活力の向上と低炭素社会を実現する都市構造の形成

- 交通拠点を中心とした都市拠点の強化
- 地下鉄をはじめとする鉄道やバスなどの公共交通をはじめとした都市軸の活用

+

① 京都市の特性を踏まえた土地利用の展開

- 保全・再生・創造の土地利用
- 山間部から市街地内部にかけての段階的な空間形成

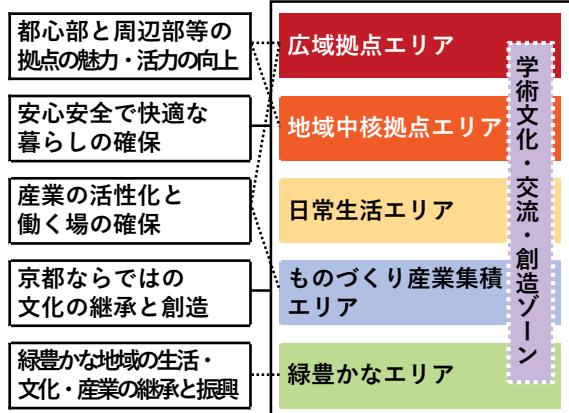


京都市持続可能な都市構築プラン

～3つの基本コンセプト～

- 京都のブランド性 (京都の都市特性を基礎とするまちづくり)
- 地域の多様性 (市域全体の持続性を確保するまちづくり)
- 暮らしと活動の機能性 (人々の活動を重視するまちづくり)

～5つの基本方針と地域分類～



次期「基本計画」(策定中)

出典: 令和2年2月7日開催
【第4回京都市基本計画審議会】資料(抜粋)

【計画の背景】

- 人口減少と少子高齢化
- 地球温暖化の加速
- グローバル化の進展
- 低経済成長と厳しい京都市財政

【都市の経営の理念】

生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く

【京都の未来像】

- 環境共生と低炭素のまち・京都
- 日本の心が感じられる国際都市・京都
- 環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都
- 学びのまち・京都
- 支え合い自治が息づくまち・京都
- 真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都

時代の潮流(現行「都市マス」以降)

- 真のワーク・ライフ・バランス推進計画
- 「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略
- SDGs
- society 5.0
- 京都市レジリエンス戦略

現行「都市マス」の目指す将来像 「エコ・コンパクト」な都市構造

<平成24年 策定当時の背景(全国的な動向・課題等)>
・「まちづくり三法」の見直し, 中心市街地の空洞化, 都市の経営
・「集約型都市構造」構築に向けた「選択と集中」(社会資本整備審議会報告書) 等

今回の拡充の要点

市域全体の持続性, 周辺部等多様な地域の魅力と活力の向上

<検討の視点とキーワード(例)>

より持続性の高い都市構造への再構築

- 若年・子育て層の人口確保
- 地域経済の活性化
- 東京一極集中の是正
- 京都都市圏
- 歴史や文化の継承と新しい価値の創造
- インフラ・ストックの有効活用
- 周辺部の活性化
- スマートシティ

市域全体の持続性 周辺部等多様な地域の魅力と活力の向上

- 多様な地域拠点の活力向上
- 生活圏の魅力づくり
- ニーズにあった居住環境
- 産業空間用地の創出
- 自然や文化, 大学などの地域資源
- 職住共存・職住近接
- 地域コミュニティの発展
- 多文化・環境共生
- 新たな生活様式
- ウォーカーブル
- 地域の強靱化
- 等

地域の特性とポテンシャルの活用

人々の暮らしや活動の支え

※都市の将来像・都市計画の方針等の充実, 方面別の指針・政策ブリッジの検討